

見てみよう

橋なの？

橋杭は10本残っていることが判明し、見ると、横に3本（橋杭1・9・10、8）がー組になり、縦に4本（橋杭1・2・3・4）がー組になります。新たに確認された考えると、北東側が一方の端で、南へ続きます。

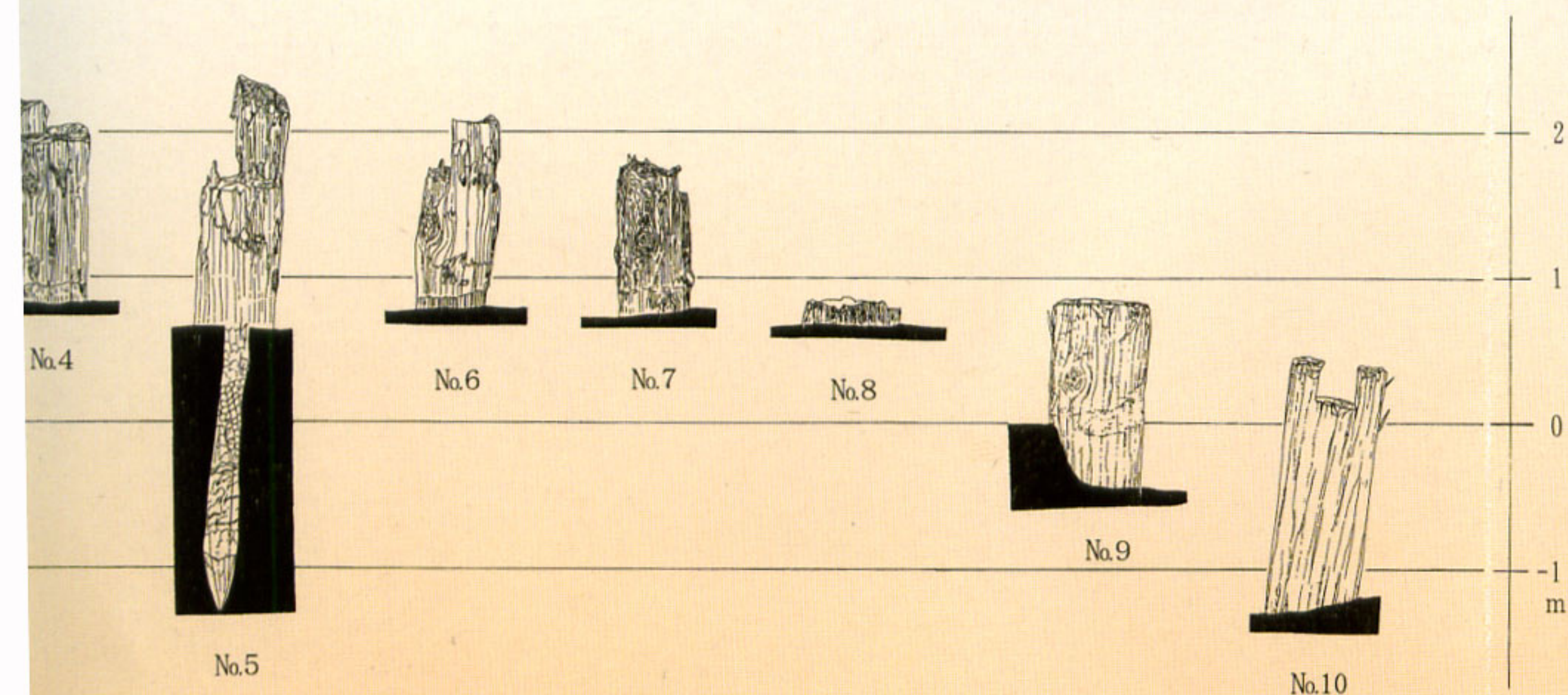
加工しました

木を加工して作られています。直なるほど細く尖っています。残って3m65cmでしたが、橋として使われていたはずで、延びていたはずで

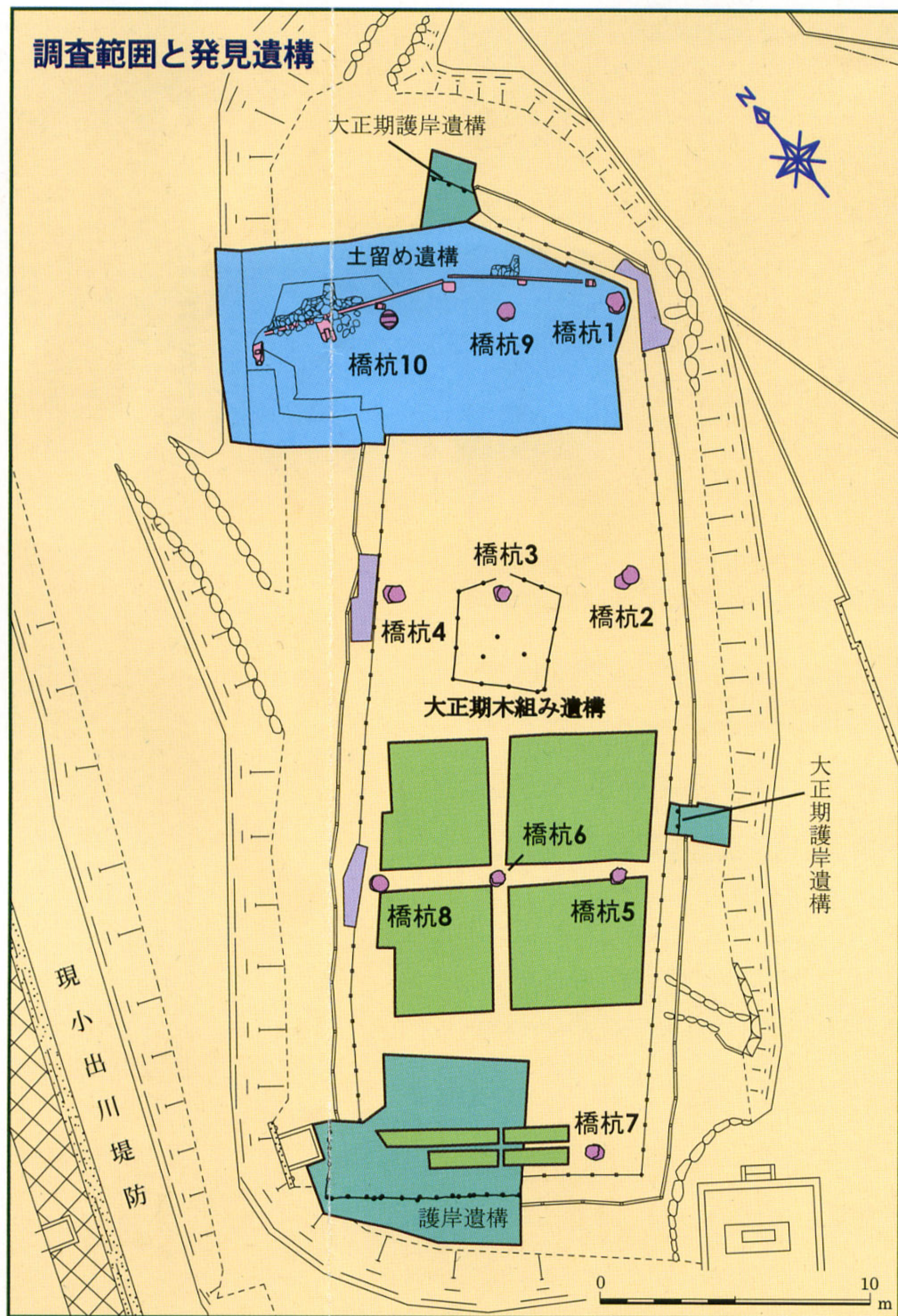


橋杭No.10

と10の上部には四角い加工部分が、開けられた穴（ほぞ穴）で、別の木と接合されていたと思われます。（最終ページ：見てください）



と地中にあった時の高さは不明ですが、現状では2mほどの違い、動いた量の違いと考えられます。（右側の数値は海拔標高を示す）



橋杭No.4



東側厚板



角柱3と西側厚板



角柱5と礫積み



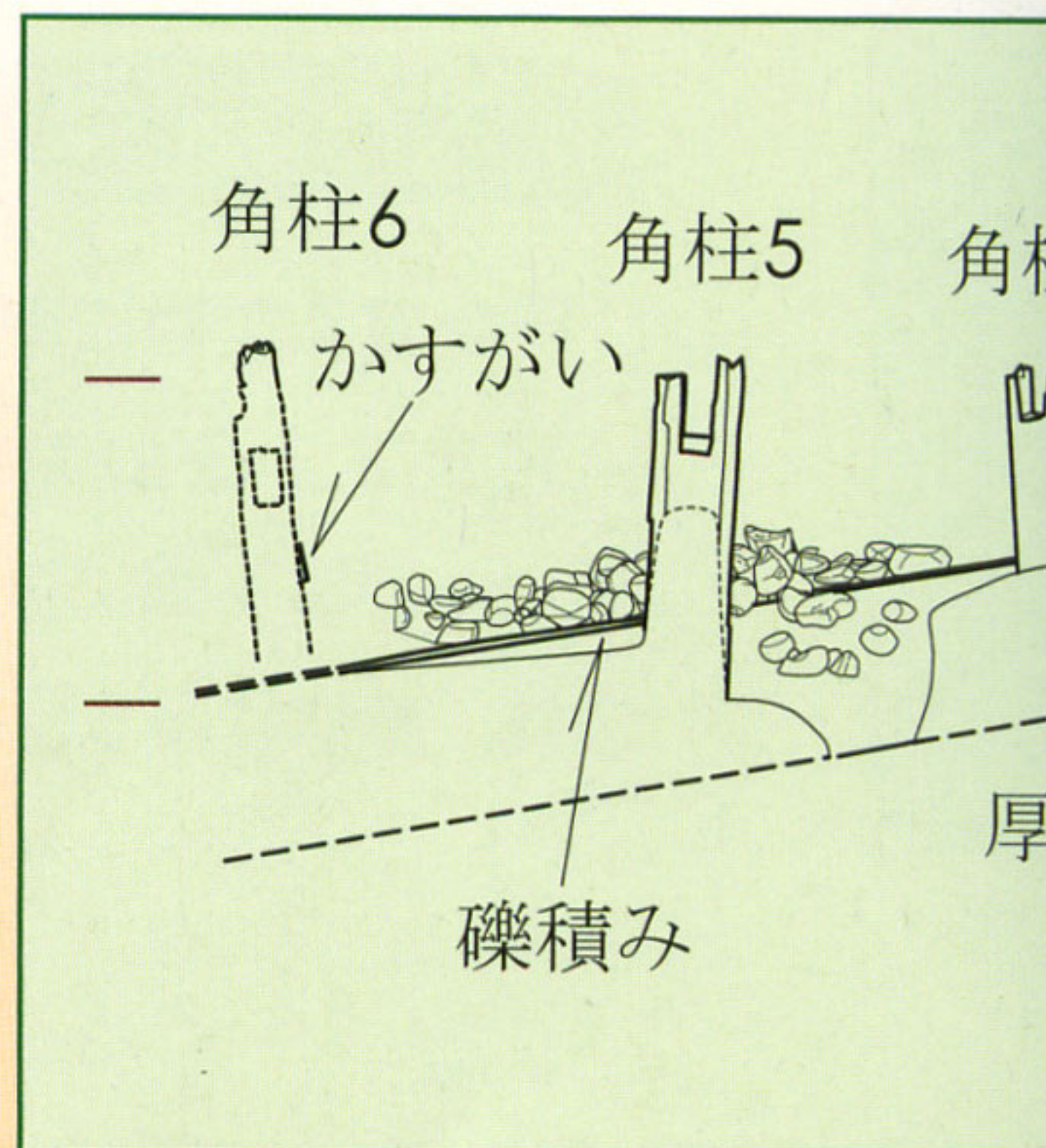
中世

中世の土留め

橋脚の北側で発見されたもので、それに礫で構築されています。東側が5m10cm以上ある、立ってた板を角柱で支え、川岸が崩れよう。礫も同じ目的で板の北側全に使われます。

こちらも巨大な

厚板は厚さ10cm、幅約1m、長さ約5m以上、東側が5m10cm以上ある、立ってた板を角柱で支え、川岸が崩れよう。礫も同じ目的で板の北側全に使われます。



厚板と角柱には、土留めに必要なた材料は、再利用されたものと考えられています。